

明治20年7月～明治24年6月

主筆——山田美妙

婦人の啓蒙と言文一致文体の普及を目指した明治期文芸雑誌の復刻版！

# 以 良 都 女

いらつめ

全  
五  
卷



不二出版

◎推薦——岡保生・三好行雄・前田愛・山田有策

●復刻にあたって

明治二十年七月創刊から明治二十四年六月終刊まで八十四号が発行された。編集人は創刊時、正木政吉、榛葉彦三郎等を経て、十四号から山田武太郎(美妙)となった。本誌は当初、女子教育を論じ、婦徳を高め、その地位の向上を期すると共に、言文一致の文体を世にひろめるところにあったが、山田美妙の活躍によって小説・翻訳・新体詩・評論などすべてに美妙の独り舞台の感を呈した。また、婦人雑誌としては『女学雑誌』とともに先駆的な役割をなし、投書雑誌としてののちの『文庫』と並称されるような役割をはたした。弊社では、『以良都女』全八十四号を、全五巻の合冊本として復刻し、あわせて、解題・総目次・執筆者名索引を別冊として刊行する。

●すいせんの言葉

岡 保生 ●青山学院大学教授

近代文学黎明期の若々しい息吹

私が『以良都女』の名を知ったのは、本間久雄先生の『明治文学史』(昭和十年刊)によってであった。その挿入図版の中に『以良都女』のビラがあり、肉太の字で『以良都女 毎月一回発行 定価金八銭』とあったのをいまなお鮮かに記憶している。その後、『美妙選集』(同年刊)中の中川小十郎氏『いらつめ』と言文一致を読んで、いよいよ『以良都女』への興味を駆り立てられた。が、実際によりやくその原物を見ることができたのは、戦後也大分日があつたからのことである。つまりは、この雑誌が当時からそれほど稀覯のものとなつていたからであろう。本誌は山田美妙主筆だったから、小説の文体史上きわめて重要な意義をもつことはもちろんだが、美妙はほかに詩・評論・随筆・紀行・批評・雑文など、さまざまな文章を本誌に書いている。この希有の才能をじかにたしかめ、近代文学黎明期の若々しい息吹を感得する喜びは、なにもものに代えがたいだろう。

三好行雄 ●大妻女子大学教授

復刻版『以良都女』を推す

『以良都女』といえば、明治文壇切つての才子山田美妙の名とともに語られることの多い雑誌だが、はじめは女性の教育啓蒙と言文一致文体の普及をめざして創刊された婦人雑誌である。女性の解放と口語文体の創出は明治初期の啓蒙運動の重要な目標のひとつであり、その意味で、明治近代のもっともストレートな志向とふかかくかわつた存在といえよう。その後、美妙が編輯者として表に出るあたりから急速に文芸雑誌的な色彩を強めていったわけだが、時代にさきがけた美妙の才質をうかがうことができると同時に、近代文学の成立期にはまれにたさまざまな可能性の一端をさぐる資料としても貴重である。今日、かならずしも見ることの容易でない『以良都女』全冊の復刻を世に問う書肆の英断に敬意を表するとともに、ひろく江湖の研究者にすすめたい。

前田 愛 ●立教大学教授(88年死去)

『以良都女』との出会い

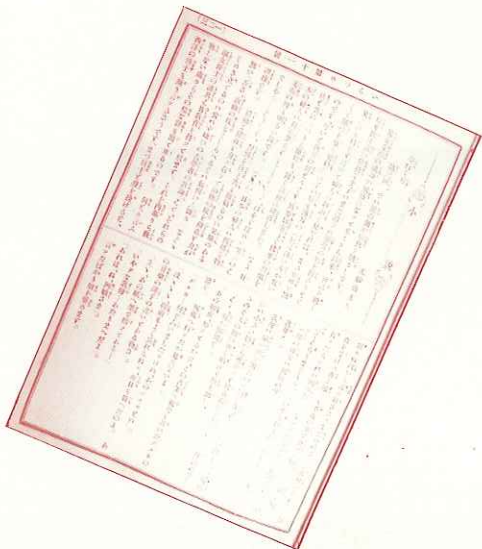
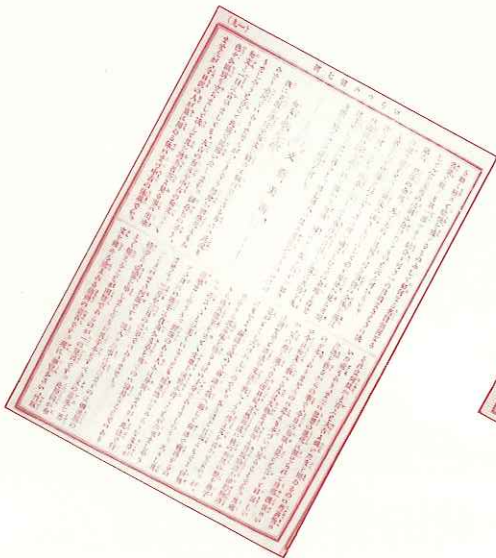
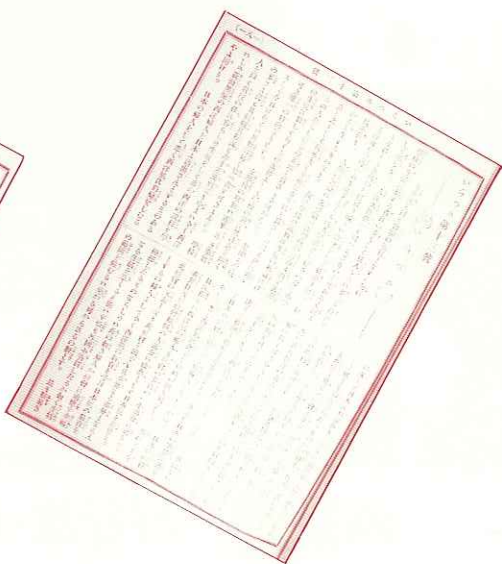
『以良都女』の原物とはじめて対面したのは、たしか昭和三十六年のことだったと思う。そのころ私は東大の明治文庫に通いつめて、明治二十年前後の新聞・雑誌をあれこれと漁っていた。後で『近代読者の成立』に収めることになる論文「音読から黙読へ」の資料あつめが目的である。そういうわけで、山田美妙が言文一致の実験場にえらんだ『以良都女』は、とりわけ克明にノートをとった。まだコピーが無い時代だから、「風琴調一節」「ふくさづゝみ」「空行く月」などの言文一致体小説は、サワリの部分が抜き書きしてある。久しぶりに昔のノートをひらいてみたら、性来の悪筆が祟って判読不能の箇所がたくさんあることには愕かされた。『以良都女』は稀覯の雑誌で、古書展にもめつたに姿をあらわさない。今度の復刻を機会にノートの穴を埋めるのをたのしみしている。

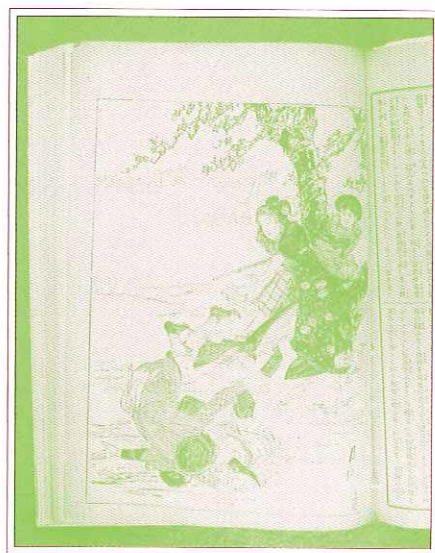
山田有策 ●東京学芸大学助教授

言文一致の普及に功績

『以良都女』が復刻されるという話を聞いた時、真っ先に想い浮べたのが故山本正秀先生のことである。先生はその生涯を『言文一致』の研究にささげつくしたほとんど唯一の研究者であった。生前の先生はお会いするたびにいつも若輩の私に対しても『言文一致』について情熱的に語ってやまなかった。だから女性啓蒙誌としてよりも、『言文一致』の普及に大きな功績のあつたこの『以良都女』の復刻を、生前にお聞きになつたらどのような喜びになつたらうと思うと、先生の御逝去が残念でならない。この意味で先生の生前に是非とも実現したかった企画の一つのだが、遅ればせながらもそれがここに実現されることは実にうれしい限りである。先生の研究の継承を心に銘記しつつ、この『以良都女』の復刻を喜びたいと思う。

●内容見本(縮小してあります)





「以良都女（いらつめ）」全五巻・別冊一

明治二〇年七月〜明治二四年六月

全八四号・全五巻（合本版・上製）

総頁数／二、二〇〇頁

編輯／山田美妙

別冊／解題（山田有策）・総目次・索引

（別冊のみ分売可・定価千円）

●揃定価——六万円

## 不二出版既刊書籍

### 都の花

- 1888（明治21）年～1893（明治26）年
- 全22巻（全109号）・別冊1
- 菊判・上製・総13,438頁
- 別冊＝解題（山田有策）・総目次・索引
- 揃定価270,000円

### 新著月刊

- 1897（明治30）年4月～1898（明治31）年5月
- 全15冊・別冊1
- A5判・並製・総4,200頁
- 別冊＝解説（山本昌一）・総目次・索引
- 揃定価110,000円

### 趣味

- 1906（明治39）年6月～1914（大正3年）1月
- 全19巻（全59冊）・別冊1
- 菊・B5判・上製・総13,000頁
- 別冊＝解説（尾形国治）・総目次・索引
- 揃定価350,000円

本カタログ中の表示価格は、全て消費税を含んでおりません。

不二出版

〒113 東京都文京区向丘一丁目二番二  
TEL 〇三―八二―四四三三  
FAX 〇三―八二―四四六四  
振替（東京）六一九四〇八四

※弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。